

# 地域協働学校だより No.6

令和元年 12 月 6 日  
新宿区立市谷小学校  
地域協働学校運営協議会

オリンピック・パラリンピック関連行事が目白押しです。「日本の伝統文化に親しむ」ことをねらいに、11 月 26 日、昨年に引き続き古今亭菊志んさんをお迎えして全校児童を対象に落語教室が催され、6 年生は落語体験ワークショップにも参加しました。また、12 月 3 日には体育朝会でプロなわとびプレイヤーの生山ヒジキさんのパフォーマンス鑑賞の後、1, 2 年生がなわとびの指導を受けました。見学させていただきましたのでご紹介いたします。

## 古今亭菊志んさん落語教室

2 時間目に体育館に集まった児童たちは、寄席のお囃子の音が聞こえてくるとざわざわして、わくわく感が伝わってきました。はじめに菊志んさんから、落語がどんなものかという簡単なお話がありました。昔の人の「お楽しみ」であり、物語に出てくるたくさんの登場人物を全部一人の落語家が演じること、声や顔の向きや話し方で人物を演じ分けることなどです。児童たちはとても反応がよく、わっとウケるかと思うとすぐに静まって熱心に話を聞く姿が見られました。

### 演目は『たぬき』と『鈴ヶ森』

最初の演目は男が助けてやった子だぬきが彼のところに恩返しをしにやってくる『たぬき』。兄貴分の出産祝いに行きたいのでお祝いの鯉に化けさせて持っていくと、すぐに料理してしまおうという話になり、たぬきの鯉はまな板にのせられてしまいます。児童たちの楽しそうな反応から、それぞれが頭の中でイメージを膨らませて理解している様子が分かりました。次の『鈴ヶ森』はちょっと抜けている泥棒の見習いが、かしらと追いはぎの実地訓練にいくという話でした。決まり文句を覚えられずに言い間違えてばかりの新米泥棒のセリフに大いにウケて、低学年の児童はすっかりツボにはまってしまったようでした。



### 古今亭菊志んさん プロフィール

1971 年 広島県生まれ  
1994 年 4 月 古今亭園菊に入門  
1994 年 6 月 前座となる前座名「菊朗」  
1998 年 5 月 二つ目昇進  
2007 年 3 月 真打昇進「菊志ん」と改名  
寄席での公演のほか CD、DVD も出版、受賞  
歴多数。学校公演・親子寄席なども大好評。  
市谷小児童の保護者。

## 6 年生落語体験教室

3, 4 時間目は、古今亭菊志んさんによるワークショップに 6 年生が各クラス 1 時間ずつ参加しました。グループに分かれて①言葉遊びと②ジェスチャーパフォーマンスに取り組みました。



「言葉遊び」では、ダジャレ（駄洒落）ではない洒落を考える課題が出ました。例えば「これはタコですか？ーいか（イカ）にも」「あなたはお坊さんですか。ーそう（僧）です」など、言葉の関連付けがあって、かつ意味が通る文です。6 年生たちがグループごとに短時間で知恵を絞って考えた文は以下の通り。  
●この犬はいくらで買ったの？ワンコインだよ。●宇宙が欲し（星）い。●南西諸島の昆虫屋さんで働くのはどうだった？蒸し暑かった（虫扱った）です。●ここは禁煙ですよ。吸ってました？はい、吸ってました。すいません（吸いません）。●親ブーン、蜂持ってきました。●夏休みは楽しかった？もうあき（秋）れたよ。●サザエさんがタラタラしてる。●誕生日は景気（ケーキ）がいい。

●脱毛に行く、もう（育毛）。●湖に入ってはいけ（池）ません。●なんで帽子かぶってるの？髪型変えたのをいいづらかった。●ルパンが時限（次元）爆弾を解除した。

「ジェスチャー」では、まず菊志んさんから落語で使われるジェスチャーの実演をしてもらいました。

お饅頭を割って食べてお茶を飲む、扇子を刀や煙管（きせる）に見立てたり、お箸にしてそばを食べる、体をゆらして歩くしぐさ、手の動きで急ぎ足にしたり走ったり。児童たちは自分の選んだ身振り手振りを練習してから、各グループから一人ずつ即席の高座の上で発表しました。1組はおそばを食べるジェスチャーをしたグループが多かったですが、2組はオリジナルのストーリーに基づく創作ジェスチャーが多く、6年生たちは伝統芸能を学ぶとともにクリエイティブな一面も披露していました。

### プロなわとびプレーヤー

#### 生山ヒジキさんによるパフォーマンス&なわとび教室

12月3日の体育朝会は、プロなわとびプレーヤーの生山ヒジキさんのパフォーマンスで始まりました。音楽に合わせたフリースタイルパフォーマンスには高度な技がちりばめられ、児童たちは圧倒されつつも大変盛り上がり、拍手喝采でした。ヒジキ先生の軽快なトークやTシャツジョークにも笑い声がはじけました。

世界大会での優勝経験や数々の世界記録を持つ生山ヒジキさんは、子供たちがプロのすご技パフォーマンスを「観て」、すごいなあ、やってみたい！などと「感じて」、それから「体験する」という流れで、多くの学校などで指導をされています。1, 2時間目はそれぞれ2年生と1年生が体育館でなわとび指導を受けました。



2年生の授業では、縄を持ってストレッチしたり、ジャンプして膝を二回たたいたりの準備体操の後、すぐには縄を跳ばずに体に触らないように止めてみたり、「ひとりゆうびんやさん♪」のように縄を前後にゆらして跳んでみるなど、なわの扱いに慣れるような練習から始まり、交差跳び、あや跳び、二重跳びなどの跳び方を教わりました。



跳ぶときはいつでも縄を地面につけて跳ぶようにすると高く跳ばなくても楽に跳べることや、なわとびの端を握って親指を伸ばす「親指持ち」だと、前とび・後ろとび・二重跳びが跳びやすくなるという秘訣も教わりました。交差跳びでは、目の前に「なわ」がきたら腕をおへそのところでバッテンにする、そのとき腕は大きく交差して幅を広くする、縄を地面につけるようにして跳ぶ、というコツを教わって練習しました。交差跳びやあや跳びでは、「親指持ち」にさらに人差し指を伸ばした「人差し指持ち」で跳びやすくなることもあるそうです。皆さんも一度試してみてください。二重跳びの練習では、最初にやった「ジャンプしながら膝を二度叩く」感覚を思い出すようにしました。



ヒジキ先生によるなわとびの指導中、児童たちは集中力を切らすことなく熱心に取り組んでいました。跳ぶだけでなく、カッコいい決めポーズなど、なわとびがあまり得意ではない児童も挑戦できる課題がたくさんあり、あちらこちらから「できた！できた！」という嬉しそうな声が聞こえました。

ちなみに、なわとびの長さは、片足で踏んでのばした時に縄の始まりがみぞおちあたりにくるのが適切なのだそうです。手軽にできるなわとびで、新しい技に挑戦して達成する楽しさを感じながら、体力増進につながるといいですね。

#### **生山ヒジキさん**

2014年なわとび世界大会では5種目で優勝、24時間耐久なわとびで15万1409回のギネス世界記録を達成するほか、合計10個のギネス世界記録を持ち、スポーツ選手としては日本一のギネス記録保持者。Eテレ「はりきり体育ノ介」でなわとび指導、そのほかステージパフォーマンス、メディア出演、学校等でのなわとび指導や講演多数。生山さんの活動やなわとびの技はインターネットでもご覧になれます。<http://nawatobikosuke.com/>

